

Claude Fable 5が知財実務をどう変えるか

エグゼクティブサマリー

Anthropicは2026年6月9日に、Mythos級の能力を一般ユーザー向けに初めて広く公開するモデルとして **Claude Fable 5** を発表しました。Anthropic公式は、Fable 5を「Anthropicが広く公開している中で最も高性能なモデル」と位置づけており、日本語報道でも同日の一般提供開始が確認されています。まず結論を言うと、**知財実務におけるFable 5の本質的な改善点は、単なる“賢さの微増”ではなく、長時間・多資料・多工程の案件を、証拠を保持しながら最後の成果物まで運び切る能力の向上にあります。**したがって、改善が大きいのは、先行技術調査、特許性評価、拒絶理由通知対応、クレームチャート、技術資料を含むFTO、ポートフォリオ分析、DDのような「長くて、途中で崩れやすく、証拠管理が要る」仕事です。Anthropic公式の法務関連コメントでは、Fable 5のレッドライン結果が既存モデルと同等以上だったとされ、HarveyのLegal Agent BenchmarkでもFable 5は13.3%に到達したと報告されています。 ¹

一方で、**Fable 5はOpus 4.8の完全上位互換ではありません。**公開仕様上、コンテキストウィンドウはOpus 4.8と同じ100万トークン、最大出力も同じ128kで、価格は入力・出力ともにOpus 4.8の2倍です。さらに、Fable 5は安全性監視のために**30日保持が必要な対象モデル**であり、Zero Data Retention前提のワークスペースではそのまま使えません。加えて、安全性分類器による `refusal` とOpus 4.8へのフォールバックが前提になっているため、生物系・サイバー系・推論抽出系に近い案件では、**能力向上と引き換えに運用上の摩擦が増える可能性があります。**したがって、法律事務所・知財部の実装としては、**Fable 5を「複雑案件の主力オーケストレータ」としつつ、ZDR必須案件や拒否が問題になる案件ではOpus 4.8を残す二層運用が最も現実的です。** ²

もう一点、今回の改善は **モデル単体** と **法務・知財スタック全体** を分けて見る必要があります。Fable 5自体の改善は、常時オンの適応型思考、強い指示追従、長時間自律実行、並列サブエージェント、技術画像理解、証拠付き進捗監査などです。しかし、ソース帰属や透明性の大きな改善は、同じくAnthropicが2026年5月12日に公開した **Claude for the legal industry** のコネクタ/プラグイン群、すなわち CoCounsel Legal、Harvey、Solve Intelligence、Relativity、Everlaw、iManage、NetDocuments などとの組み合わせで最大化されます。特に知財では、Solve IntelligenceやPatSnapのような特許・NPL連携が、Fable 5の長文推論能力と噛み合うことで実務価値を持ちます。つまり、**Fable 5の実務上の価値は「モデル性能」×「証拠付きデータ接続」×「人間レビュー」の積として出る、と見るのが正確です。** ³

端的に言えば、Fable 5は、知財実務における“AIによる下調べ・下書き”を、Opus 4.8時代の「便利だが人がかなり面倒を見る必要がある補助」から、「適切な接地とガードレールがあれば、案件のかなり奥まで持たせられる準主担当」へ近づけるモデルです。ただし、**最重要秘密案件・ZDR要求案件・バイオ特許実務・サイバー境界案件では、Opus 4.8が依然として重要な残置モデルです。** ⁴

調査前提と公開情報の境界

本件は、評価を誤らないために、次の三層を分けて見る必要があります。第一に、**モデル固有の差分**です。ここには、Fable 5の常時オン適応型思考、推論・長時間自律実行・視覚理解・メモリ利用・並列サブエージェントなどが含まれます。第二に、**プラットフォーム差分**です。たとえばツール、ウェブ検索、Files API、バッチ、キャッシュ、フォールバック、データ保持要件などです。第三に、**法務・知財向け接続先の差分**です。CoCounsel、Harvey、Solve Intelligence、PatSnap、DMS、データルーム、e-discovery基盤などがここに入ります。Fable 5の実務改善は、この三層の掛け算として現れるため、「モデルだけ比較」すると過小評価し、「全部をFableの手柄」にすると過大評価になります。 ⁵

Anthropicの公開資料で確認できる事実としては、Fable 5は **Claude Opus 4.8**と同じ**Messages API**、同じ**ツール利用パターン**、同じ**100万トークン文脈長**、同じ**128k最大出力**、同じ**トークナイザ**を使いながら、**適応型思考が常時オン**になり、**プロンプトキャッシュ最小長が512トークン**へ下がり、**価格はOpus 4.8の2倍**になっています。また、**安全性分類器による refusal**と**Opus 4.8への自動フォールバック**が設計の中核に入り、**対象モデルとして30日保持**が要求されます。⁶

逆に、公開情報で**未指定**または**十分に公開されていないもの**もあります。具体的には、**Fable 5の特許実務専用ベンチマーク**、**日英法務文書での言語別精度差**、**全体的なハルシネーション率**、**特許・商標・契約ごとの細粒度レイテンシ**、**Fable 5専用のファインチューニングや埋め込みAPI**は、少なくとも2026年6月10日時点で確認できる一次資料では明示されていません。したがって、これらの項目は本報告では「**未公表**」と明示し、必要な部分のみを、公開済みの一般能力向上から慎重に推定しています。⁷

加えて、日本語資料はかなり揃っており、Anthropicの日本語APIドキュメント、日本語ヘルプセンター、日本語の一般報道、さらに日本弁理士会や法務省系の公的資料も利用できます。そのため、本報告では英語一次資料を主軸にしつつ、**日本語の一次・準一次資料を優先的に併用**しています。⁸

公開区分	本報告での扱い	具体例	根拠
公式に確認できる	断定して記述	100万トークン、128k出力、常時オン適応型思考、価格、 refusal 、30日保持	Anthropic公式・API Docs・Help Center (2026年6月9日公開、2026年6月10日確認) ⁹
パートナー・実務者評価	出典を明示して限定的に採用	Harvey 13.3%、法務レッドライン比較、CoCounsel/Westlaw連携、Solveの特許ワークフロー	Harvey、Anthropic legal stack、Thomson Reuters、Solve (2026年5月～6月) ¹⁰
未公表	「未指定」「未公表」と記述	特許専用精度、Fable専用ファインチューニング、Fable専用埋め込みAPI、日英法務精度差	公開Docs・Help記事で確認できず。利用可能な主経路はFiles/RAG/ツール/MCP中心 ¹¹

Claude Fable 5とClaude Opus 4.8の差分

以下の表は、**知財実務に影響しやすい差分**を、「公開済み事実」と「実務上の意味」に絞ってまとめたものです。重要なのは、**Fable 5は“何でも速く・安く”するモデルではなく、“複雑案件を崩さずにやり切る”方向に強く振れたモデル**だという点です。だからこそ、短いQ&Aより、クレームチャート、FTO、OA応答案、DD集約レポートのような仕事で差が出やすい、と考えられます。¹²

項目	Claude Fable 5	Claude Opus 4.8	知財実務での意味	公開状況
モデルの位置づけ	Anthropicが広く公開している中で最も高性能なモデル	Opusティアで最も高性能なモデル	高難度案件の担当候補がFableへ移る	Anthropic公式 (2026年6月9日公開、6月10日確認) ¹³
法務ベンチマーク	Harveyで13.3%のLegal Agent Benchmark	Opus 4.8はHarveyで「10%超」を初めて達成	法務タスクの絶対精度はまだ人間主導前提だが、委任可能な下流工程が増える	Harvey/Anthropic (2026年5月28日、6月9日) ¹⁴

項目	Claude Fable 5	Claude Opus 4.8	知財実務での意味	公開状況
特許・知財専用ベンチマーク	未公表	未公表	「法務一般の改善」は確認できるが、「特許法ドメインでの厳密精度」は別途検証が必要	公開一次資料で未指定。Solve等の接続はあるがモデル単体の特許精度値は確認不能 ¹⁵
推論モード	適応型思考が常時オン。 <code>thinking: disabled</code> は不可。生のCoTは返さず要約のみ	リクエストにより思考有無を分ける運用が残る。高自律作業では <code>xhigh</code> 推奨	Opus 4.8でありがちだった「考えさせ忘れ」「モード調整の煩雑さ」が減る。一方で <code>max_tokens</code> の見直しは必要	Migration guide / Prompting docs (2026年6月10日確認) ¹⁶
指示追従と曖昧案件対応	短い指示でも強く操縦でき、複雑・多筋の依頼で次手判断が向上	Opus 4.8も優秀だが、Fableはさらに上	OA方針、補正方針、複数候補発明の整理、侵害/無効の両面論点整理で利く	Anthropic docs (2026年6月10日確認) ¹⁷
長時間自律実行	数日規模のタスク継続、並列サブエージェント、メモリ運用が向上	Opus 4.8も長時間作業に強いが、Fableはさらに長期案件寄り	先行技術調査→差分抽出→応答案→表整理までの一気通貫が現実的になる	Anthropic docs (2026年6月9日公開、6月10日確認) ¹⁸
画像・図表・技術資料	密な技術画像、表、スクリーンショットの解釈精度が大きく向上	PDF・ビジョン対応はあるが、Fableはより高精度	特許図面、SEM/波形/表、製品比較表、クレームチャートの証拠整理に有利	Anthropic docs (2026年6月9日公開、6月10日確認) ¹⁹
Unsupported claims / 幻覚系	全体率は未公表。ただし、ツール結果で各主張を監査する指示により、捏造進捗報告がほぼ排除	Opus 4.8は4.7比で、書いたコードの欠陥を見逃す率が約4分の1、unsupported claimsも減少	Fableは「長い案件での進捗虚偽」に強く、Opus 4.8は「一般的なunsupported claims抑制」に強い。どちらも最終検証は要る	Anthropic docs / Opus 4.8 release (2026年5月28日、6月10日確認) ²⁰
ソース帰属・引用精度	モデル単体の比較値は未公表。実務上はCoCounsel/Midpage/Solve等と組むと透明性が強い	HebbiaはOpus 4.8で citation precision 向上を明示	Fable単体よりも、 Fable + grounded connector で改善する領域。証拠URL・段落・文献番号ベースに設計すべき	Hebbia/ Claude legal stack (2026年5月12日、5月28日) ²¹

項目	Claude Fable 5	Claude Opus 4.8	知財実務での意味	公開状況
文脈長と最大出力	100万トークン、128k出力	100万トークン、128k出力	ここは据え置き。改善はサイズではなく使い切り方	Anthropic API Docs (2026年6月10日確認) ²²
キャッシュしきい値	512トークン	1024トークン	中短文のプレイブック、案件指示、スタイル指示、定型調査プロンプトがキャッシュしやすくなる	Migration guide / Prompt caching (2026年6月10日確認) ²³
レイテンシ	ルーチンでは適応思考で速く返ることがある一方、難題は数分～数時間の長いターンもあり得る。実務評価では一部タスクで25-30%高速化	Opus 4.8には最大2.5倍のFast modeが公開されている	体感は「短い会話はOpus Fastが優位な場面あり」「案件全体完了時間はFableが有利な場面あり」	Anthropic docs / pricing (2026年5月28日、6月10日確認) ²⁴
価格	\$10 / MTok入力、\$50 / MTok出力。BatchでもOpusの2倍	\$5 / MTok入力、\$25 / MTok出力。Fast modeは同価格帯になる	単価は上がるが、 少ない往復・少ないトークンで終わる案件 では総コスト逆転の可能性がある	Anthropic pricing / Reuters (2026年6月9日、6月10日確認) ²⁵
セーフティと拒否	安全性分類器が新たに中核化。 refusal + Opus 4.8へのフォールバック。平均トリガー率は5%未満	Opus 4.8はFableの主なフォールバック先	生物・サイバー寄りの特許案件、推論抽出プロンプトで運用摩擦が出る	Fable release / Refusals docs (2026年6月9日、6月10日確認) ²⁶
秘密保持・データ保持	対象モデルとして30日保持が必要。ZDR環境ではそのまま使えない	既存の商用利用条件・ZDR運用が使える。商用データは既定で学習不使用	ここはFableの明確な弱点 。最重要秘密案件はOpus 4.8残置が合理的	Anthropic Help Center / Privacy Center (2026年6月10日確認) ²⁷
ツール・RAG・プラグイン	同じMessages APIとツールパターン。Fable launch docsはTask budgets、memory tool、context editing、compaction、visionを列挙	Opus 4.8もFiles API、PDF、vision、prompt caching、batch、toolsをサポート	自社特許DB、CoCounsel、Harvey、Solve、PatSnap等と組む前提で実務効果が最大化	Anthropic docs / legal stack (2026年5月12日、6月10日確認) ²⁸

項目	Claude Fable 5	Claude Opus 4.8	知財実務での意味	公開状況
多言語対応	現行Claudeモデルは多言語対応。Fable特有の日英法務精度差は未公表	同左	日本語案件・英文明細書・海外OA比較で使えるが、言語別品質差は自社evalが必要	Anthropic日本語Docs / Solve connector (2026年6月10日確認) ²⁹
ファインチューニング／埋め込み	Fable専用の公開ファインチューニング/ embedding endpointは未確認。主経路はFiles、web search/fetch、MCP、connector	同様	知財では「モデル改造」より「接地と権限制御」の方が実務上重要	Anthropic docs / support (2026年6月10日確認) ¹¹

この比較から見てくるのは、**Fable 5は知財実務において「より大きな仕事を少ない制御で任せられる」方向の改善**であり、**Opus 4.8は「より軽く、より守りやすく、必要ならFast modeで即応できる」方向の強み**を残している、ということです。したがって、案件の価値は「Fableへ全面移行」ではなく、**ルーティング設計**に宿ります。 ³⁰

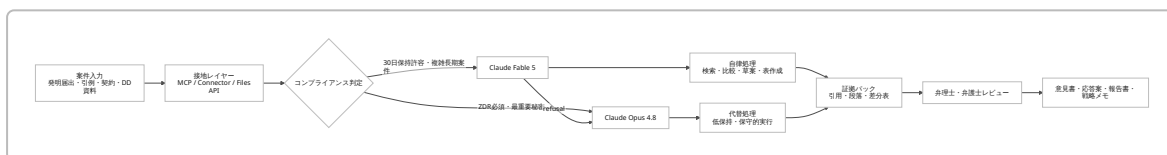
知財ワークフローへの具体的な影響

知財実務は、一般法務よりも、**技術文書・先行技術・クレーム構造・図面・比較表・多国法務資料**が絡みやすい分、モデルの“長持ちする推論”が効きやすい領域です。特にFable 5は、複雑で曖昧な依頼をほどこき、長い案件で指示を維持し、技術画像や表を読み、必要ならサブエージェントへ振り分けられるとAnthropicが案内しています。これらは、特許調査やFTOのような「検索して終わり」ではなく、「検索結果を選別し、差分化し、ドラフトまで作る」知財仕事と相性が良い能力です。 ³¹

タスク	改善見込み	改善の中心	推奨モデル運用	コメント
先行技術調査	高い	長時間自律実行、複数ソース統合、メモリ、技術資料読解	Fable 5 + 特許/NPL connector 、ZDR案件はOpus 4.8	Solveは特許・NPL・法令・SEP標準・Webを横断できる。Fableの価値は検索の“実行”より“反復選別と統合”にある ³²
クレームドラフティング	高い	指示追従、長文構造保持、first-shot correctness	Fable 5初稿 → 弁理士レビュー	patent-specific benchmarkは未公表だが、長文・複雑文書の一回通し品質は改善見込みが高い ³³
クレームチャート	中～高	表・図・技術仕様・比較表の扱い、反復精査	Fable 5 + Solve/ PatSnap/自社DB	ここは モデル単体より接地されたDB連携が重要 。Fableはチャートの統合品質を押し上げる役割 ³⁴
FTO	高い	多文献比較、曖昧論点整理、長文一貫性	Fable 5で論点抽出 → Opus/人間で保守的レビュー	最終法的結論ではなく、論点マップと証拠表の質が上がるが見るべき ³⁵

タスク	改善見込み	改善の中心	推奨モデル運用	コメント
特許性評価	高い	先行技術との差分構造化、反証候補探索	Fable 5主力	novelty / inventive step の“論点棚卸し”が強化される。最終判断は人間が保持 ³⁶
OA応答案作成	高い	複数引例の整理、補正案複線化、証拠連動	Fable 5草案 → 人手で法域適合化	曖昧さ処理と長文一貫性の向上が最も効く領域の一つ ¹⁷
パテントランドスケープ	高い	並列サブエージェント、スプレッドシート、長時間実行	Fable 5主力	多数のCPC/競合/技術軸を並列処理しやすい。スプレッドシート系でFableはevery effortでOpus 4.8超とされる ³⁷
商標クリアランス	中～高	多ソース照合、IP Legal plugin、要注意論点抽出	Fable 5 + IP Legal plugin + 商標DB	AnthropicのIP Legal pluginは商標クリアランスとFTO triageを明示している ³⁸
契約レビュー	中～高	レッドライン品質、Word/Outlook/Excel連携	Fable 5またはOpus 4.8	契約中の知財条項、OSS条項、権利帰属の比較レビューは有望。Fableの法務レッドライン評価も好感触 ³⁹
DD	高い	データルーム横断、文書整理、証拠付き要約	Fable 5主力、最終レビュー人間	Datasite / Box / iManage / NetDocuments などの許可ベース接続と相性が良い ³⁸
クライアント機密案件	条件付き、場合により悪化	能力向上自体は有利だが、30日保持が障害	Opus 4.8残置が有力	ここはFableの弱点。秘密・特権・ZDRが優先ならOpus優位 ²⁷

この表で特に重要なのは、クレームチャート、FTO、ランドスケープ、拒絶対応のような“中間生成物が多い仕事”ほどFable 5の改善が大きいことです。Opus 4.8でも相当の支援は可能ですが、Fable 5では、同じ案件をより少ない往復で、より長く崩れず進められる可能性が高いからです。他方で、証拠の真正性・法域適合性・秘密保持が最優先の仕事では、Fable 5の能力そのものより、どの環境でどのデータ保持条件で動かすかが支配的になります。 ⁴⁰



この運用図の肝は、Fable 5を単独で信じるのではなく、Fable 5を“案件オーケストレーター”、接地コネクタを“証拠供給源”、人間を“署名者・責任者”として固定することです。Anthropic自身も、法務向け接続先について、権限境界、監査可能性、透明性、一次法源への接地を強く打ち出しています。 ⁴¹

Opus 4.8の痛点とFable 5での改善イメージ

以下は、Anthropicが「Opus 4.8の痛点一覧」を公開しているわけではないため、公開ドキュメントと典型的な知財ワークフローから合理的に推定した pain points です。特に、特許・商標・契約・FTO・DDでは、単

なる回答品質よりも、**手戻り・分割指示・進捗虚偽・ソース追跡の面倒さ**が現場の不便として効きます。

42

Opus 4.8で起こりやすい不便	なぜ知財実務で痛い	Fable 5でどう変わるか	実務上の見込み
hard taskでthinkingを明示し忘れる、またはxhigh調整が必要	先行技術選別やOA対応で、能力を引き出し損ねる	適応型思考が常時オン。まずhighから始められる	モデル選定・effort設計が簡素化し、案件ごとの設定ミスが減る 16
多文書・多論点案件で、途中から文脈が散漫になる	FTO、DD、ランドスケープで致命的	長時間自律・並列サブエージェント・メモリ運用が改善	「資料収集→選別→表→草案」まで一筆書きで行きやすい 43
特許図面・表・スクリーンショット・技術比較表に弱い	クレームチャートや製品比較で手作業が戻る	dense technical imagesの解釈精度が向上	画像由来の証拠化と数値抽出の手戻りが減る見込み 44
長い案件で「作業しました」型の怪しい進捗が出る	調査報告やDDで虚偽進捗は危険	ツール結果で主張を監査する指示で、捏造進捗がほぼ排除	“show your work”ではなく“show your evidence”を徹底すべき 45
プレイブックやMatter instructionが短くてキャッシュされにくい	毎件同じ方針・条項姿勢を入れると無駄が多い	512トークンからキャッシュ可能	特許部・法務部の標準指示を安く再利用しやすい 23
citation/groundingをモデル単体に期待しすぎる	引例・法源・商標DBがズレるとそのまま事故になる	Fable 5時代はconnector前提設計がしやすい	改善の主因はFable単体ではなくgrounded stackとの統合 46
最重要秘密案件で外部保持を避けたい	特権・守秘・開示制限で止まる	ここは改善ではなく後退 。Fableは30日保持が要	この類型ではOpus 4.8残置が合理的 27

この表からわかるように、Fable 5の改善は「答えそのもの」より、**案件運用の摩擦を減らすこと**にあります。実務では、1回の回答の質よりも、「同じ方針を保ったまま、20~200件の文書断片をまたいで、最後まで真面目にやり切るか」が重要です。Fable 5が強いのはまさにそこです。 31

以下のようなプロンプト設計にすると、Fable 5の改善が知財実務に噛み合いやすくなります。

あなたは特許調査補助者です。
Solve Intelligence と社内案件メモを使い、先行技術調査を実施してください。

要件:

- 日本語・英語の特許/NPLを横断
- 各候補文書について、請求項1の各構成要件との対応表を作る
- 各主張に必ず根拠文献ID、段落、図番号、公開番号を付す
- 不確実な箇所は「未確認」と明示
- 最後に、(a) 新規性、(b) 進歩性、(c) 補正余地、(d) 追加調査テーマを分けて出力

この種のプロンプトでは、Fable 5の価値は「検索すること」そのものではなく、**検索結果を要件対応表と補正戦略まで押し込めること**にあります。Solve IntelligenceはClaude内で先行技術探索、クレームマッピング

グ、特許文書ドラフトを扱えると案内しており、AnthropicのFable docsはFable 5が複雑で長時間の曖昧な依頼をよりよく処理できるとしています。期待される出力は、単なる要約ではなく、**クレーム要素×文献×段落のマトリクス**、論点別の未確認事項、そして next action を含む調査メモです。 47

あなたは日本・米国のOA対応補助者です。
以下の拒絶理由通知、引例、現行請求項、明細書サポート箇所を読み、
応答のたたき台を作ってください。

出力要件:

- 引例ごとの争点表
- 争点ごとの反論候補を3案
- 補正案を「狭める案」「文言整理案」「実施例寄せ案」に分ける
- 各案について、明細書サポート箇所と副作用を明示
- 法域ごとに未確認事項を列挙
- 最後に弁理士レビューで必ず確認すべき赤旗を5件以内で出す

Opus 4.8でもこの種の草案は可能ですが、Fable 5では、**曖昧な補正方針や複数法域の分岐を、一貫した構造のまま保持しやすい**と考えられます。AnthropicはFable 5について、曖昧な複雑依頼の扱い、指示追従、長い案件の継続性が向上したと説明しています。期待される出力は、単なる「返答案」ではなく、**補正戦略の比較表と赤旗付きのレビュー用下敷き**です。 17

あなたはクレームチャート作成補助者です。
PatSnap / Solve Intelligence のライブデータを使い、
対象特許クレームと被疑製品仕様書・公開情報を照合してください。

出力要件:

- 構成要件別の claim chart
- 各セルに証拠リンク、引用文、画像/図表の参照位置を付す
- 充足、不明、非充足を分類
- 前提事実と推定事実を分離
- 最後に、追加で収集すべき証拠を prioritized list で出す

クレームチャートでは、Fable 5の**図表読解、複数資料横断、長いタスクの保持**が最も生きやすい一方、**モデル単体での正しさ**には限界があるため、ライブの特許・製品データ接続が重要です。PatSnapはClaudeとPatent & Literature MCPで、IPR、FTO、侵害分析向けのelement-by-element chart作成を案内しており、Solve Intelligenceも prior-art search や claim mapping を公式にサポートしています。期待出力は、最終意見書ではなく、**人間が署名可能な chart に近づけるための grounded draft** です。 48

リスクとコンプライアンス

最も重要なリスクは、**秘密保持・特権・データ保持**です。Anthropicの商用プロダクトでは、既定では顧客データを学習に使わないと説明されています。しかし、Fable 5はMythos級の対象モデルとして、**信頼・安全目的で30日保持**が必要であり、これはZDR前提の組織にとって重大な運用要件です。Anthropicは、フラグ付き会話のみ少数の承認レビューアが、エクスポート不能・改ざん防止ログ付き環境で見ると説明していますが、「**保持される**」という**事実自体**が、案件の種類やクライアント契約次第では許容できない場合があります。したがって、**Fable 5の採用判断は、モデル品質評価より先に、案件分類とデータ保持ポリシーの適合性確認から始めるべき**です。 27

次に、**安全性分類器による拒否と誤検知**です。Anthropic公式は、Fable 5の safeguards は平均で5%未満のセッションで発火するとしつつ、harmless requests も誤って拾うことがあると明示しています。しかも、対象領域にはサイバーや生物が含まれるため、**ソフトウェア特許の脆弱性関連分析**や**バイオ・創薬特許の文献読解**では、知財実務上は正当でも運用上は拒否に遭う可能性があります。これはFable 5の「弱点」というより、Mythos級能力を一般公開するための設計トレードオフです。実務対応としては、**Opus 4.8へのフォールバックチェーン**と**案件種別ごとのモデルルーティング**が必要です。 49

さらに、**法域適合性と翻訳の問題**があります。日本の法令英訳データベースは、法務省自身が「英訳は公式テキストではなく、法的効力は日本語原文のみ」と明示しています。したがって、Fable 5で日英の法令・審査基準・判例・意見書をまたぐ場合、**英語版の読みやすさと、法的効力のある原文確認を混同してはいけません**。これは日本法だけでなく、各国の審査実務でも同様で、最終提出物や法的意見は、必ず当該法域の一次資料に戻して確認する必要があります。 50

米国実務では、USPTOが2024年に、AIツールの利用自体は禁じないが、**既存の正確性義務、守秘義務、署名責任がそのままかかる**ことを明示しています。また、2025年11月のAI支援発明に関するガイダンスでは、**AIは発明者ではなくツール**であり、通常の人間発明者基準がそのまま適用されると報じられています。つまり、Fable 5で発明届出を整理したりドラフトを起こしたりしても、**発明者認定・重要事実の確認・提出責任は人間側に残る**ということです。これは、AIで加速した発明創出フローほど重要になります。 51

日本の実務でも、2025年4月の**日本弁理士会「弁理士業務AI利活用ガイドライン」**は、生成AIの生成物の正確性は保証されず、最終的には弁理士が責任を持って提供すべきだと明記しています。したがって、Fable 5の導入は「弁理士の判断を置き換える」話ではなく、**調査・比較・草案作成・パターン抽出を深く前倒しして、最終責任を人間に集中させる**運用へのシフトだと理解すべきです。 52

最後に、**chain-of-thought**を**監査証跡だと思わない**ことも重要です。Fable 5では生のCoTは返らず、要約思考のみが扱われます。これは一見すると監査性の低下に見えますが、法務・知財実務で本当に必要なのは「モデルが何を考えたか」ではなく、**どの文献・どの条文・どの段落・どの図を根拠にその文言になったか**です。Anthropicも reasoning extraction を拒否カテゴリにしており、旧来の“show your reasoning”プロンプトは見直すべきだと示しています。実務上は、**思考の可視化より、証拠の可視化**を優先する設計が正しいです。 16

導入パターンとガードレール

導入のベストプラクティスは、**Fable 5を全案件の単一標準にしない**ことです。むしろ、知財・法務組織では、案件を機密性・複雑性・拒否発生可能性・接地の必要性で分類し、モデルをルーティングする方が合理的です。Anthropic自身が公式にOpus 4.8へのフォールバックを推奨し、法務向けコネクタ群を permission-bound / auditable / verifiable として打ち出している以上、**“モデル選択”はプロンプトの属人技ではなく、案件ガバナンスの一部として設計すべき**です。 53

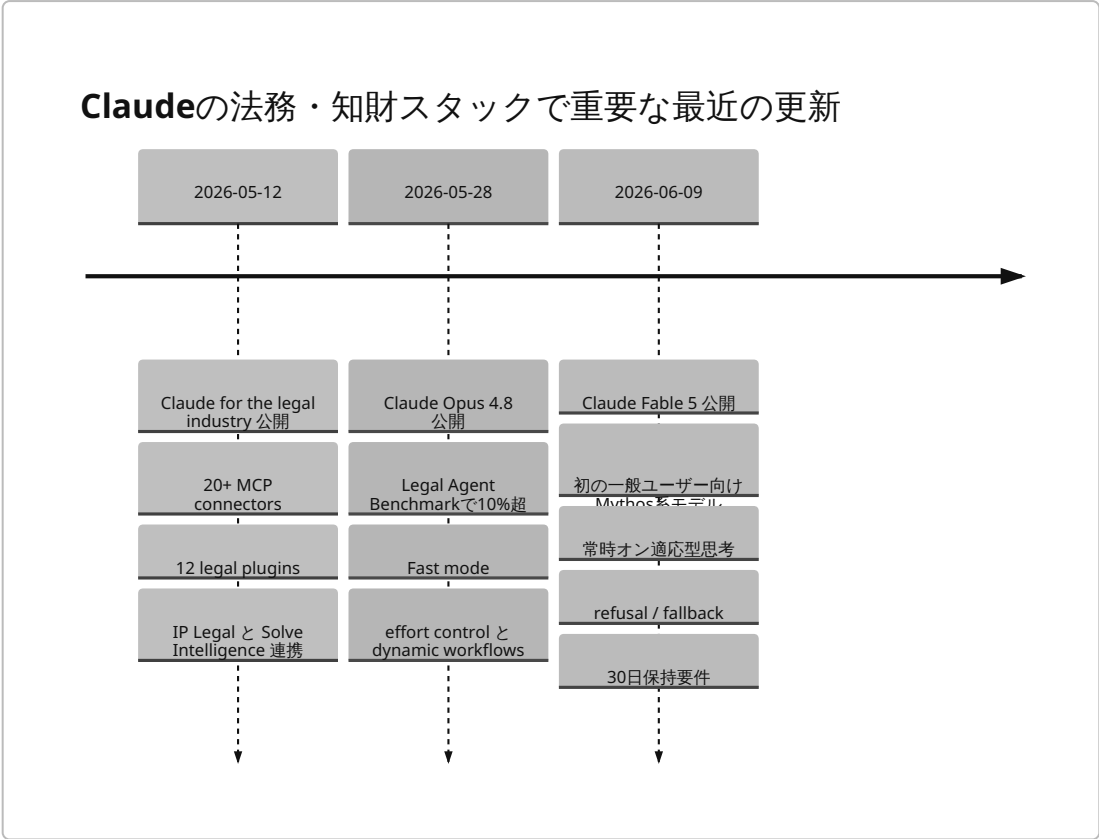
案件類型	推奨運用	主モデル	接地先	必須ガードレール
最重要秘密・ZDR必須	保持を避ける保守運用	Claude Opus 4.8	社内DMS、限定RAG	外部送信最小化、匿名化、提出前二重レビュー 54
長時間・多文書・高複雑	能力優先運用	Claude Fable 5	Solve / CoCounsel / Harvey / Files / web search	根拠表の強制、 <code>max_tokens</code> 再設定、人間署名 55

案件類型	推奨運用	主モデル	接地先	必須ガードレール
バイオ・創薬・サイバー隣接	ハイブリッド運用	Fable 5 + Opus fallback	専門DB、必要に応じ人手分割	refusal監視、フォールバック、案件種別タグ付け ⁵⁶
クレームチャート・FTO	接地優先運用	Fable 5	PatSnap / Solve / 製品証拠	element-by-element、推定/事実分離、証拠位置必須 ⁵⁷
契約・DD・商標クリアランス	legal stack統合運用	Fable 5またはOpus 4.8	CoCounsel / iManage / NetDocuments / Box / IP Legal plugin	権限境界、監査ログ、赤旗抽出、最終レビュー ⁵⁸

運用上のガードレールは、プロンプトでかなり改善できます。AnthropicはFable 5向けに、**主張をツール結果で監査させること、不要な推論露出を避けること、境界を明示すること、必要なときだけ止まるよう指示すること、短い明瞭な操縦指示を使うこと**を推奨しています。知財向けに言い換えると、次の方針が有効です。 ⁵⁹

ガードレール	推奨文言の考え方	期待効果
根拠監査	「各主張をこのセッションのツール結果で監査し、証拠に紐づくものだけ報告せよ」	調査報告・DD・OA草案の“それっぽい虚偽”を減らす ⁶⁰
証拠優先	「思考ではなく、根拠文献ID、段落、図番号、条文、出願番号を示せ」	reasoning extraction拒否を避けつつ、監査可能性を上げる ⁶¹
境界明示	「提案のみ行い、出願書類確定や送信行為はしない」	勝手な実行・過剰自動化を抑える ⁶²
不確実性表示	「不明・未確認・推定を明示し、断定しない」	法的助言らしさを保ちながら事故を抑える ⁶³
法域固定	「日本法は日本語原文優先。英訳は参考扱い」	翻訳版の過信を防ぐ ⁵⁰
Matter memory	「案件メモは1論点1ファイルで保存し、誤りが判明したら更新・削除せよ」	長案件での再利用性と一貫性を向上 ⁶⁴

実装フローとしては、**人間が最初に案件を分類し、データ保持・法域・接地先を決め、モデルは証拠集約と草案作成を行い、最後は責任者が署名する**という線形構造が最も堅いです。とくに知財では、先行技術の“拾い方”より、“拾った後の比較表・補正案・赤旗一覧”の品質が実務差になります。Fable 5は、そこを厚くするモデルだと位置づけると導入判断がぶれません。 ⁶⁵



このタイムラインが示す通り、Fable 5を単体で見ると、5月の法務・知財スタック整備の上に、6月のFable 5が載ったと理解の方が実務的です。ゆえに、法律事務所や企業知財部の現実的な答えは、「Opus 4.8を捨ててFable 5に移る」ではなく、「Fable 5で扱うべき案件を定義し、Opus 4.8を安全側に残したうえで、grounded connectorを中核に据える」です。これが、2026年6月10日時点で最も堅い導入戦略だと考えられます。 66

1 9 26 37 49 <https://www.anthropic.com/news/claude-fable-5-mythos-5>
<https://www.anthropic.com/news/claude-fable-5-mythos-5>

2 13 22 29 <https://platform.claude.com/docs/ja/about-claude/models/overview>
<https://platform.claude.com/docs/ja/about-claude/models/overview>

3 32 38 39 41 46 58 65 66 <https://claude.com/blog/claude-for-the-legal-industry>
<https://claude.com/blog/claude-for-the-legal-industry>

4 5 17 18 19 24 33 35 40 44 61 <https://platform.claude.com/docs/en/build-with-claude/prompt-engineering/prompting-claude-fable-5>
<https://platform.claude.com/docs/en/build-with-claude/prompt-engineering/prompting-claude-fable-5>

6 16 23 42 55 <https://platform.claude.com/docs/en/about-claude/models/migration-guide>
<https://platform.claude.com/docs/en/about-claude/models/migration-guide>

7 <https://www-cdn.anthropic.com/d00db56fa754a1b115b6dd7cb2e3c342ee809620.pdf>
<https://www-cdn.anthropic.com/d00db56fa754a1b115b6dd7cb2e3c342ee809620.pdf>

8 12 20 31 43 45 59 60 62 64 <https://platform.claude.com/docs/ja/build-with-claude/prompt-engineering/prompting-claude-fable-5>
<https://platform.claude.com/docs/ja/build-with-claude/prompt-engineering/prompting-claude-fable-5>

